



## 肝疾患をもつ人に対する看護師の支援とは

看護栄養学部看護学科  
高比良祥子 教授

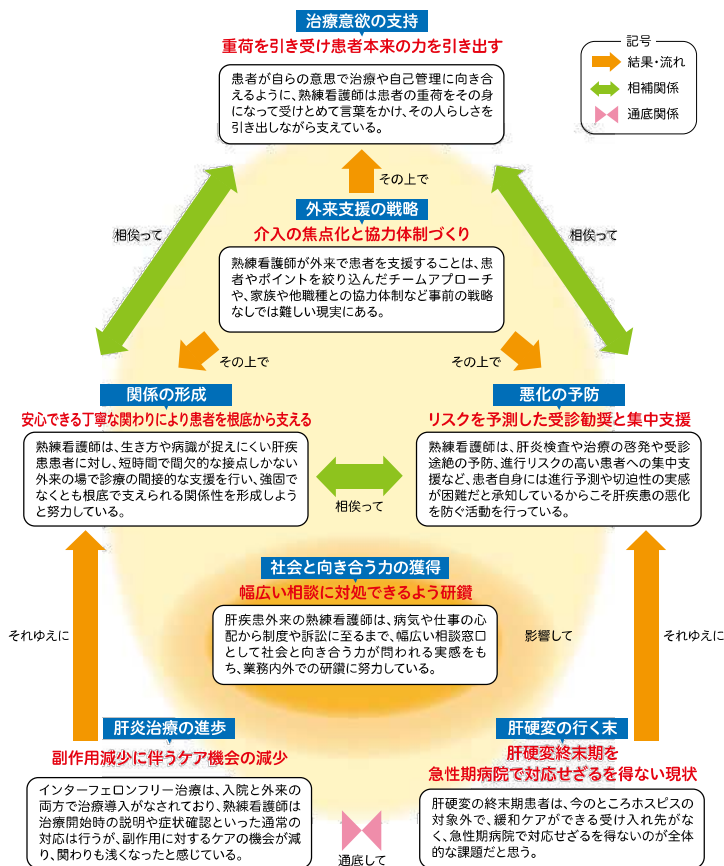
皆さんは、肝炎ウイルス検査を受けたことがありますか。日本には、B型肝炎ウイルスの持続感染者が約110万～120万人、C型肝炎ウイルスの持続感染者が約90万～130万人いると推定されています。ウイルス性肝炎は自覚症状がほとんどなく、持続的な感染によって肝硬変や肝がんへと移行する可能性があります。現在は、副作用の少ない飲み薬でC型慢性肝炎の治療が可能となりました。B型慢性肝炎はインターフェロン治療や、飲み薬により肝炎を鎮静化させる治療などが行われています。このように薬剤の発展による治療効果が大きいのですが、現在も肝炎ウイルス検査を受けていない方、陽性と言われているが治療を受けていない方が大勢残っていると言われています。

こうした状況の改善に向けて、ウイルス性肝炎の知識を深めて(予防)、検査を受け(受検)、陽性であれば病院にかけり治療が必要か判断してもらうこと(受診・受療)を推進するため、肝炎医療コーディネーターが養成されています。

私の研究室では『肝炎医療コーディネーターの認定を受けた看護師の実践の工夫』について全国調査を行いました。その結果、多職種に働きかけ肝炎予防活動を進める工夫、手段を駆使して情報を発信する工夫、肝炎ウイルス検査陽性者を拾い上げ受診につなげる工夫、肝疾患患者が安心して受療できるような支援の工夫という4つの視点が明らかになりました。

また、肝疾患をもつ人は専門医による治療や検査を続けることが大切です。肝疾患をもつ人が生活の質を保ちながら治療や検査を続けるための看護を明らかにしたいと考え、『熟練看護師が外来で行う肝疾患患者への療養支援のあり様』に関する研究を行いました。今後も、肝疾患看護の研究を続けていきたいと考えています。

長与町の40歳以上の方が受けられる健診・がん検診には、過去に肝炎ウイルス検査を受けたことがない方のための無料の肝炎ウイルス検査が設けられています。まだ肝炎ウイルス検査を受けたことがない方は、検査を受けることをお勧めします。



熟練看護師が外来で行う肝疾患患者への療養支援のあり様